株式会社 DZHフィナンシャルリサーチ
東京都中央区明石町 8-1 聖路加タワー32 階

週間展望・回顧（豪ドル、南ア・ランド）

September 20, 2024

豪ドル、重要イベント相次ぐ

◆豪ドル、重要イベントが相次ぐ
◆豪ドル、RBA の利下げ転換は来年以降との予想が中心
◆ZAR、SARB は約 4 年ぶりの利下げを決定

予想レンジ
豪ドル円　95.00-100.00 円
南ア・ランド円　7.90-8.50 円

9 月 23 日週の展望

豪ドルは下値の堅い動きとなりそうだ。来週は豪州から 24 日に豪準備銀行（RBA）理事会、25 日に 8 月消費者物価指数（CPI）と重要イベントが相次ぐ。日米の金融政策を一通りこなしたことで、再び豪州の金融政策に焦点が当たることになりそうだ。

注目の RBA 理事会だが、政策金利は現行の 4.35%で据え置かれる見込みだ。チャーマーズ豪財務相などから RBA の金融引き締め姿勢に対する非難の声が伝わっているものの、ブロック RBA 総裁はタカ派的な姿勢を崩しておらず、利下げは時期尚早との見方を維持している。今回の声明文もハト派的な内容になる可能性は低いだろう。

市場では一部金融機関が RBA の利下げ開始予想時期を前倒ししたものの、それでも利下げ開始は早くても来年 2 月との予想になっており、今週利下げに踏み切った米国など他の主要国と比較すると、RBA の政策転換は半年程度遅れる見込み。短期的には対米金利差縮小への思惑が意識されやすく、対ドルを中心に豪ドル相場の支えとなるだろう。

また、25 日公表の 8 月 CPI にも注意が必要となる。RBA はインフレの上振れリスクに強い警戒感を示し、「インフレが合理的な期間内に目標（2-3%）に戻らないリスクが高まっている」との認識を示しているため、今回の CPI でインフレ鈍化基調が確認できない場合、RBA のタカ派姿勢が一層強まる可能性もありそうだ。

南アフリカ・ランド（ZAR）は底堅い動きが予想される。南アフリカ準備銀行（SARB）は 19 日に開催した金融政策決定委員会で 0.25%の利下げを決定。約 4 年ぶりとなる金融緩和へ舵を切った。SARB はインフレ見通しに関して「2026 年までインフレ目標レンジ（3-6%）の中央値である 4.5%を下回る水準に抑えられる」としており、金利予想について「来年は中立に向かって動き、7%をわずかに上回る水準で安定すると見込む」と述べている。

インフレ抑制が持続するとの予想や、SARB が穏やかな金融緩和姿勢を示していることは、これまでインフレ高止まりと景気低迷が続いていた南アフリカにとってポジティブな材料。ZAR 相場にとっても買い材料として受け止められそうだ。来週は 26 日に 8 月卸売物価指数（PPI）の公表が控えているが、今週発表された 8 月 CPI と同じくインフレの鈍化傾向が確認できるか注目しておきたい。

9 月 16 日週の回顧

豪ドルは対ドル・対円でともに堅調推移。週明けから底堅く推移していたが、米連邦準備理事会（FRB）が予想外の大幅利下げを決定すると対ドルで豪ドルが上昇。また、米利下げ後に世界的に株高基調が強まり、対円でも株高を手掛かりにした買いが入った。豪ドル円は一時 97.88 円と 3 日以来の高値を更新した。ZAR も同じく堅調な展開となった。対ドルでは一時 17.39ZAR 台と昨年 2 月以来の ZAR 高水準を記録。対円でも 8.2 円台まで上値を伸ばした。（了）

本レポートはお客様への情報提供のみを目的として作成したもので、売買の勧誘を目的としたものではありません。実際に投資をなさる場合の最終ご判断は、お客様ご自身でご判断なさるようお願い致します。本レポートを原因とするお客様の直接あるいは間接的損失および損害については一切補償には応じません。 Copyright DZH Financial Research, Inc.